

ベルポニュース

2020年(令和2年)秋冬号

特定非営利活動法人社会教育団体ベルポ会

福岡市博多区西月隈3丁目8-11
TEL:092-441-8059 FAX:092-452-5643
e-mail: bellpol@eo.bbiq.jp
URL: <http://www.bellpo.fukuoka.jp>

友好都市交流「2020瀋陽佐世保青少年絵画交流展」開催

瀋陽市人民対外友好協会と社会教育団体ベルポ会は、2019年12月に友好都市交流「佐世保瀋陽児童友好絵画展」を佐世保市博物館島瀬美術センターで開催。この事業は2021年に佐世保市と遼寧省瀋陽市姉妹都市締結10周年を迎えることから、キックオフ事業として始動。今年の8月には瀋陽側の展覧会に佐世保市から代表団を派遣して交流する予定でしたが、新型コロナの影響で延期となっていました。展覧会は11月28日～12月4日迄瀋陽市図書館アートギャラリーで開催され、11月28日は同会場多目的ホールと佐世保市中央公民館講堂をオンラインで繋いで開幕式が行われました。瀋陽側は主催者代表の王晶莹瀋陽市人民政府外事弁公室主任・同市人民対外友好協会秘書長、来賓代表片江学已在瀋陽日本総領事が、佐世保側は主催者代表の鶴ゆかりベルポ会理事長、来賓代表で西本眞也佐世保市教育長がビデオメッセージでお祝いの言葉を。朝長則男佐世保市長からも祝辞が届き、中島勝利佐世保市企画部長がご出席下さいました。福岡のベルポ会ボランティアメンバーも駆けつけて賑やかに。鶴理事長の挨拶は、最所純子佐世保支部事務局長ご家族が中国語通訳を担当し、安井千賀佐世保支部長のお孫さんが所属するチームブラックベリーと瀋陽側代表児童のパフォーマンスは楽しい歌やダンスで華を添えました。佐世保支部学生ボランティア佐藤光君(中2)の代表学生挨拶はビデオメッセージで放映を。開幕式の模様は瀋陽市と佐世保市の双方でTVニュースや新聞で報道されました。

来年の友好都市10周年へ向け、佐世保市でもオンライン時代の新たな交流の幕開けとなりました。



片江総領事(中央右)が絵画を観覧



西本教育長



(左)王晶莹瀋陽市外事弁公室主任・人民対外友好協会秘書長
(右)鶴理事長と通訳の劉麗さん、生花は最所純子事務局長



(上)チームブラックベリー
(下)平和区南京一校
長白一分校学生



＜参加者の声を転載いたします＞

●今日の瀋陽市佐世保市の交流はコロナで互いに直接交流が出来ずとも心の交流・心の中は通っていると深々と感じました。

●世界中がコロナで分断される中、オンラインを使って両都市がつながって児童友好の絵画展が開催される意義は大きな事と実感しました。鶴理事長の「眞のグローバル化において相手に興味を持つ好奇心が大切」との言葉に感動し、中国が近くになりました。

●国を越えて子ども達のダンスや挨拶、全てに感動しました。是非、機会があれば瀋陽市に行ってみたいです。



佐世保側は佐藤光君、瀋陽側は李坤君(南京一校長白島一キャンパス)が代表挨拶



早速、劉元昌
九州地区中国
学友会会長と
繋がりました!

広がるICT(情報通信技術)の波

志免町の夏休みの子どもの居場所「志免町地域子ども教室チャレンジひろば」のコーディネーターの方々に、コロナ禍の今後を考慮したZOOMの勉強会を依頼され、鶴理事長を講師に9/29・30、11/17の3回行いました。皆さん初めての体験にドキドキわくわく。今後の活用に意欲的でした。(ベルポ会事務局員 助村千代子)

【東アジア交流の歴史を学ぶ】



当会活動をご支援頂く
李相鎬民団福岡県地方
本部団長(右)から、11
月に着任された李熙燮
駐福岡韓国総領事(左)
をご紹介頂きました。



9月27日大牟田市甘木山公園で行われた「徴用犠牲者慰靈祭」に参加。先人を敬う気持ちが次の世代に引き継がれていますことを感じました。(民団福岡県地方本部・在日コリア大牟田共催。
兎判根 在日コリア大牟田代表(中央)

日清講和記念館展示室



11月8日民団福岡県地方
本部主催の関門海峡ウォ
ーキングスタディで、北部
九州の歴史的役割を認識。

朝鮮通信使上陸港留の碑



【様々なジャンルでオンライン交流が広がりました】

上海白玉蘭会



9月29日に上海と日本の東京・岡山・福岡をオンラインで繋いで、上海白玉蘭会が行われました。当初は4月に東京で開催予定でしたが、新型コロナの影響で今回の開催に。沙海林上海市人大常委会副主任・市対友協会長、張小松上海市外弁主任・対友協常務副会長と日本側受賞者代表での、更なる発展へ向け有意義な交流でした。

北京市手芸交流



12月10日北京側ニュースでは
製作した作品も紹介されました。

北京 NGO のお誘いで手芸交流に参加して海外 13ヶ国との交流、世界がとても身近に感じられました。仕事に復帰したい主婦の悩みも共通する部分があると思いますが、このように様々な国からのアドバイスや意見交換はとても大事なことだと思います。私だけの一品！皆さんと楽しく作成しました。(東福岡支部 武田淑子)

中国共産主義青年団北京市委員会と「青年が社会をより良い方向へ導く」オンライン交流を重ねました



9月10日、今年から北京市で始まった家庭ごみ分別をテーマに、福岡市と近郊の取り組みについて弥生公民館で交流しました。福岡市で長年福祉に関わられた山本都美子弥生校区社会福祉協議会会长が、地域コミュニティのごみ処理事業詳細について解説(写真左)。福岡市からは濱田葉子国際交流課主査が参加されました。



10月10日にオンラインで四ヶ国を結ぶ会議に参加しました。最も興味深かったのは、中国人講師の指導のもと、京劇の面を彩色する企画でした。参加者が異地域に居ながら、同一目的を同一時間に行なう体験は、絵を描くことを職業とする者には大変に貴重なものとなりました。
(画家 原野啓次)



10月28日北京友好都市国際青年オンライン交流に24ヶ国の青年が参加しました。開幕式では山田彰子さんと家永瑠依さんが佐賀城前で撮影したユースキャンプ活動方針が放映され、分科会「若者の貧困改善」では鶴理事長が英語でプレゼンをしました。

キッズボランティアがオンラインピザ講座受講



ピザ作りに参加して初めて生地をこねたり道具を並べたりしました。オンラインで参加して作ったので分からぬ所もあつたけれど楽しく作れました。みんなと一緒に作ったピザはとてもおいしかったです。(ベルポ会キッズリポーター 小山華奈・萌々)



お別れの会にはユリ子先生を偲んで、沢山の教え子が作品を持参されました。

9月29日、今年2月永眠された古賀ユリ子先生(福重公民館子ども絵画教室主宰)の御子息古賀亮至様が、「母が大切にしていた国際交流と児童絵画振興にお役立てください」と真心の寄付50万円をベルポ会事務局へお届け下さいました。誠に有難うございました。

編集後記 ベルポ会の活動を通して・・・子供たちの成長や国際化を目指すボランティアに携われることに喜びを感じます。地元地域活性の一助となればとも。先ずは自分が成長との思いで、パソコンも買って苦手な事に挑戦の日々です。(佐世保支部 遠藤佳子)老若男女を問わず交流と成長の場として、スタッフの方々の生の声を掲載しました。みなさま、これからもよろしくお願い致します。